

審議会等の会議結果報告書

課所名

高齢者福祉課

会議名

令和2年度 第1回 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会

開催日時

令和2年9月14日(月) 13時30分 ~ 15時00分

開催場所

諏訪市役所 大会議室

出席者

(出席者) (敬称略)

○推進委員会
委員長 松本宙明
副委員長 小澤清一

○委員
笠原健一 牛山正裕 蟹江弓子 富田和彦 今村貴保 三好一二三 神永記男
小泉敏夫 知見寺園子 村田千壽 宮坂正義 武川正

○事務局
健康福祉部長 関隆雄
高齢者福祉課長 河西一浩 介護保険係長 徳永理恵
高齢者福祉係長 有賀恵 同係主査 伊藤雅文 同係主任 両角あずさ

資料

- ・令和2年度 第1回 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会～次第～
- ・諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員名簿(R2. 4現在)
- ・令和2年度 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 策定スケジュール
- ・諏訪市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画(平成30年～令和2年)実施状況等【資料1】
- ・高齢者等実態調査結果(抜粋)【資料2】
- ・第8期計画の概要【資料3】

<協議事項(内容)及び会議結果>

1 開会(高齢者福祉課 河西課長)

交代委員紹介(長野県福祉大学校 武川正教授、諏訪市老人クラブ連合会 宮坂正義会長)

2 あいさつ(健康福祉部 関部長)

コロナ禍の中、介護関係者、地域で高齢者を支えてくださっている方々には、ご心労も多いが、想像力豊かに対応していただいている。Web 等利用できない高齢者に対して、どのように情報発信していくか課題。次期計画策定に関して、高齢者の幸せをどのように築いていくか、ご意見をいただきたい。

3 協議事項(委員長)

(1)今後のスケジュールについて

(事務局)

資料「令和2年度 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 策定スケジュール」について、計画策定まで今回含め4回の委員会開催を予定している。

(2) 諏訪市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画(平成30年～令和2年計画)実施状況等【資料1】

(事務局)

諏訪市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画(平成30年～令和2年計画)実施状況等【資料1】に基づき説明

①ご意見・実施状況・課題等

(委員)

- ・諏訪市、日赤、社協、医師会と協力して事業を推進しているが、包括、ライフドアのみでは、地域の隅々まで共有する仕組みが構築されていない。
- ・医療や介護は広域レベルでの情報共有が必要であり、広域内の連携が確立していない。
- ・介護職の質問題。介護の担い手が少なく、未経験、無資格でも採用。法人・施設で人材教育をするには限界があるため、状況により行政やライフドアで支援できると思う。

(委員長)

- ・地域の通い場づくり、高齢者の生きがいについて、行政主催事業の参加者平均年齢や男女比は？

⇒事務局

高齢者福祉課主催の介護予防教室参加者は女性9割。平均年齢70代後半。

(委員)

- ・老人クラブの会員が減少している理由は、加入すると「役」をしなければならないことが挙げられる。そのため、入会を拒否し、県や国の連合会から諏訪市は退会した。老人クラブのテーマは「伸ばそう健康寿命、担おう地域づくり」。会員を増やすため、仕事をしている60代の人にも「今のうちから(老人クラブに)入って地域を担おうよ。」と個々に呼びかけている。コロナで活動も減少しているが、出来る事(マレットゴルフや諏訪湖の清掃)は密を避け行いたい。

(3) 高齢者等実態把握調査の報告【資料2】

(事務局)

高齢者等実態把握調査結果【資料2】に基づき説明

(4) 第8期計画の概要【資料3】

(委員長)

- ・概要説明
- ・介護職の人材不足の解消が議論の中心となる。

(委員)

①奨学金について

- ・日本学生支援機構では生活困窮者に対し、一時金20万円を支給する等臨時的な制度がある。また、給付型奨学金を受給している学生の中で、学費免除の支援を受けている人もいる。学びやすい環境を作っていけるかが課題。生活費が大変な学生が増えているため、丁寧な関わりが必要。

<質問>生活困窮者への給付金はコロナ禍での一時的なものか？

⇒今年度の臨時的な支援だと思われる(日本学生支援機構を通じて)。

②学生の増加について

<質問>リーマンショック等の経済情勢後、年齢問わず医療や介護を学ぶ人が増えた。現在の学生の年齢層は？今後学生増加は期待できるか？

⇒年齢層様々。養成校は40%の充足率(全国)。経済状況が好転しない社会情勢時に福祉系学生が増える傾向はあるかもしれない。公立に学生が集まる傾向があるかもしれない。

(委員)

①若い世代へ介護の魅力発信について

・中学校の職場体験がきっかけで介護職に就いた人が何人かいる。一方で進路の先生から介護職を否定されたという人もいた。教師向けの情報発信も必要。

②シルバー人材センターについて

・意欲があっても、センターに行くともマッチするものがないと言う。リーダーになりたい人もいるので、その人たちをうまく利用することが必要。

(委員)

・現在施設訪問ができない。元気で生活するには、健康第一。(資料2:高齢者等実態調査)元気高齢者、介護高齢者の回答の男女比は？元気高齢者の具体的な生活のアンケートをとったほうが良い。

⇒事務局:(高齢者等実態調査の回答)男性:女性 4割:6割。

・農業に携わる人は頭や体を使うため、認知症になる人が少ない気がする。

(委員)

・地域サロンでも男性参加者が少ない。しかし、(高齢者等実態調査から)6割が社会参加に意欲がある。サロンの参加人数は減っているが、サロンの魅力を発信し、リーダーを養成する。サロンの平均年齢は70歳代前半。60歳代は仕事をしている。サロンの継続が難しく、休会しているところもある一方で、少人数で楽しんでいるグループもある。

小地域支え合いは実際にできていないと思う。隣人が何をしているかわからない状態。

(委員長)

・介護の人材確保に関しては、元気高齢者が社会参加し、支え合いを補填することが望まれる。

(委員)

<質問>シルバー人材センターの募集はどのように？

⇒事務局:会員募集は広報を利用して発信。内容も紹介し、募集をしている。

・実際は会員が集まらないので工夫してほしい。

(委員)

・コロナ禍で施設の訪問診療ができず、職員の口腔衛生への関心度が低いいため、入所者の口腔衛生状態が懸念される。行政や施設に歯科衛生士が勤務し、各施設に情報提供できれば口腔衛生の質の向上になる。

- ・8020 推進財団の資金協力を利用すれば、歯科衛生士が雇えるのではないか？
- ・コロナ禍では施設、在宅で口腔衛生が行き届いていない。Web を使えない人にも知識を提供することは難しいが、ライフドアと協力したい。

(委員)

①口腔衛生の現状

- ・当施設には歯科衛生士がおり、入所者の口腔衛生のスクリーニングをしている。必要であれば外出受診しているが、感染リスクとなるため、口腔診療が必要な人はなるべく往診で対応。

②介護者の確保

- ・介護者の養成は、都会から田舎に住みたい人で施設に勤めた人がいる。高卒者への発信。コロナ禍で中学生の職場体験は断っても、県福祉大学校や他の養成校の実習は実施している。

(委員長)

<質問> 認知症の人の口腔衛生について

⇒歯科衛生士がスクリーニングをしている。

(委員)

①在宅生活者の現状

- ・感染が怖くて、外出しない、受診しない人もいる。通所サービスは遠方家族と接触後は2週間利用を遠慮される。ショートステイも通所サービス同様受入れができない状態。ヘルパー支援の導入が増加し、十分な感染対策をし、時間短縮で支援しているが、コロナ禍で家族介護量が増え、家族は疲弊している。介護が不足している。

(委員)

①介護職員の人材確保について

- ・元気高齢者の高齢者支援について、シルバー人材の養成をしても身体介護(排泄介助)は不可能。若い人へ介護職のPRが必要。年齢が高くなってから介護を学び、仕事とすることは難しい。(元気高齢者は)レクリエーションのリーダーとして考える。

(委員)

- ・介護を受けたい場所として圧倒的に自宅が多いが、家族に迷惑かけたくないため、思うようにいかない。元気高齢者はできる限り地域で支えあいながら、可能な限りお互い様の精神で、知恵を絞って生活する。コロナ禍以前では(自分が生活する地域の)サロンが充実しており、担い手は65歳以上が多かった。高齢者が楽しみにしていた。サロンの再開が高齢者のつながりの一つ。ライフドア等専門相談機関に相談しながら支援する。地域に相談を担える人を置く。

(委員)

①相談窓口について

・認知症地域支援推進員が住民相談を受けている。地域のつながりを構築している。

②人材育成について

・未経験、多様な働きが可能だとしても、施設で人材の教育をしていくことは難しい。介護職者の悩みはデリケートであり、処遇と人間関係。施設教育では対応が難しい利用者やその家族からのパワハラやセクハラもある。対応について、研修講師の職種を間違えると別の人を責める内容になる。継続的に施設サポートができれば良いが、悩んでいる。

(副委員長)

①人と人とのつながり

・民生委員はパイプ役。コロナ禍で活動できていない。地域の見守りが職務だが、高齢者が集まる場所がない。民生委員がカバーすることが難しい。独居高齢者は不安で生活している。

(委員)

①男性家庭介護者への支援

・家庭での男性介護者が増え、介護を知らず「できない」との相談がある。介護者が要介護者を傷つける事件は、女性より男性が多いと思う。諏訪市で家族介護教室を開催しているが、男性介護者に特化した内容があると、在宅でより長く生活できるのではないか。

(委員)

・薬局独自で高齢者の集まる場所、健康サポート教室を年に数回計画し、実施。
・認知症の早期発見について、家族が薬を買いに来るとき、認知症の資料を持って行くことが増えている。
・歯科医師会と協力し、口腔衛生をPRし、栄養士会とはフレイル予防を協力して周知。市内に20店舗以上の薬局があるため、介護等の啓発、周知に協力したい。

(委員長)

・コロナ禍で人の集まる場がなくなってしまい、残念。収束するまで待たないといけな
いか、次期計画に位置付けるか、今回の意見を参考に考えていきたい。第8期概要は介護人材の確保、育成をどうするか、またコロナ禍でもどのように必要な支援を行うかについてご意見をいただいた。参考に計画を策定していく。

4 その他(事務局)

次回委員会の予定: 11月又は12月開催予定

5 閉会(副委員長)

コロナ禍であるが、気を付けてご活躍いただきたい。